

大手損保グループの格付見直し結果

JCRは、国内の大手損害保険グループの格付を見直しました。今回の見直しにおける格付の視点は以下の通りです。個社の格付事由については、本日付のニュースリリース（25-D-0401、25-D-0402、25-D-0403）を参照ください。

■格付の視点

- (1) JCRは、大手損保グループの保険持株会社と中核会社の格付を見直し、いずれのグループについても格付を据え置き、見直しを「安定的」とした。各グループとも25/3期は、修正利益、最終利益いずれも2期連続で過去最高を更新する結果となった。好調な海外事業が業績をけん引しているほか、市場環境の改善による資産運用損益の拡大が追い風となった。政策保有株式の売却益も前期に続き利益水準を大きく押し上げている。自然災害の激甚化・頻発化の傾向が続く中、各種の対応策を講じることで影響は一定程度に抑制されているが、自動車保険においてはインフレ進行の影響から損害率が上昇している。
- (2) 各グループとも事業基盤の拡充と成長機会の確保、リスク分散などを目的として海外事業に積極的なスタンスで、戦略的投資に対するアペタイトは総じて強い。既存事業とのシナジーが見込まれるボルトオン型のM&Aに加え、政策保有株式の売却益などを活用したより規模の大きい事業投資機会が増えている。生保事業では、金利上昇が商品の魅力度向上につながり、契約業績を後押しすることが期待できる。損保事業との親和性の高い周辺領域への事業展開も進んでおり、リスク分散や収益源の多様化などに資するとみている。
- (3) 国内外で台風、豪雨、雹災、雪災、山火事などが頻発しているが、事業特性として自然災害の影響は免れ得ない。JCRは、これらの自然災害の影響を、料率の適正化や引受方針の見直し、防災・減災の取り組みなどを通じて吸収できるか、動向を見守っていく。火災保険では、料率改定や引受の制限・厳格化などを継続的に実施してきた成果が着実に表れているが、収支構造には依然として改善の余地がある。リスク・リターンバランスを踏まえた収支改善策の取り組みにより黒字化を定着できるか確認していく。
- (4) 自動車保険では、インフレ進行に伴う修理費単価の上昇を主因に損害率が上昇している。中期的には料率改定などでカバー可能とみているが、影響度合いと各社の対応の成果に注目していく。長期的には人口減少の影響に加え、自動運転技術の進展などに伴う環境変化が想定される。自動運転車の普及状況、環境整備や法制面の手当てなどにつき、中長期的な視点から見守っていく。新種保険について、各グループは、保険ニーズの拡大が見込まれる中小企業向けパッケージ商品などの拡充に注力している。市場規模に対する保険の浸透率などを踏まえると、引き続き拡大の余地はあるとみている。
- (5) 各グループの資本充実度は高い。ESRは、相当程度ストレスがかかる環境下においても十分な健全性を維持できる水準にある。経済価値ベースのソルベンシー規制（新規制）にもスムーズな対応が可能とみている。規律ある資本政策の下、ターゲットレンジを設けた上で、政策保有株式の売却、再保険の活用、生保事業にかかる金利リスクの削減などを通じてリスクを抑制している。ERM態勢の成熟度は高く、リスクアペタイトに基づいた経営が浸透している。海外事業の拡大などに伴ってグローバルかつグループ一体的なERMの重要性が高まっており、JCRはこうした事業ポートフォリオの変化への機動的かつ適切な対応を評価している。
- (6) 一連の不祥事案を背景に、業界全体で「顧客本位の業務運営の徹底」と「健全な競争環境の実現」に向けた取り組みが進められており、保険業法の改正や損害保険協会によるガイドラインの整備・改訂も検討されている。代理店への出向等を含む過度な便宜供与の禁止や適切な比較推奨販売の確保など、代理店との関係は変化しつつある。また、独占禁止法遵守や企業内代理店の自立によって競争環境の歪みを是正すべく、政策

保有株式の縮減なども進められている。JCRは、これらの業界慣行や競争環境の変化が各社の顧客基盤や財務基盤にどの程度影響するのかに注目している。

(担当) 宮尾 知浩・阿知波 聖人

【参考】

発行体：東京海上ホールディングス株式会社

長期発行体格付：AAA 見通し：安定的

発行体：東京海上日動火災保険株式会社

長期発行体格付：AAA 見通し：安定的

発行体：SOMPO ホールディングス株式会社

長期発行体格付：AA+ 見通し：安定的

発行体：損害保険ジャパン株式会社

長期発行体格付：AA+ 見通し：安定的

発行体：MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社

長期発行体格付：AA+ 見通し：安定的

発行体：三井住友海上火災保険株式会社

長期発行体格付：AA+ 見通し：安定的

発行体：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

長期発行体格付：AA+ 見通し：安定的

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル